

令和4年度全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和4年4月19日(火)に、3年生を対象として、「教科(国語、数学、理科)に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

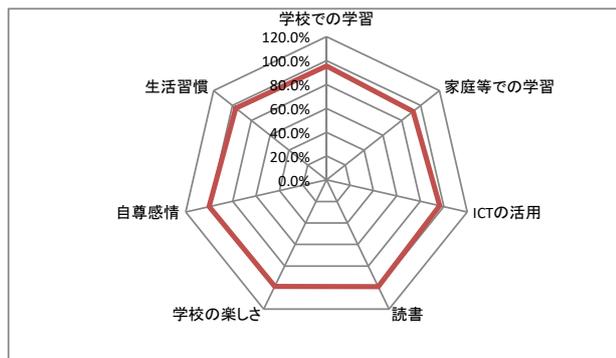
学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 教科に関する調査結果の概要

教科・区分	学力調査の分析(傾向や特徴)	全国平均正答率との比較
国語	話すこと・聞くことの領域については理解できており、全国平均正答率を上回った。しかし、書くこと・読むことについては課題がある。特に文章表現の理解や文法にやや課題がある。語彙力が不足していることも関係していると思われるため、タブレットや辞書を活用し、語句の意味を調べさせたり、作文指導を行い、添削すること繰り返し行ったりすることを通して、書くことに慣れさせる。	上回っている
数学	全体的にどの領域においても全国平均正答率を上回った。特に図形や関数の領域の正答率が高い。また、各領域内においても全国平均正答率を上回る問題が多かった。しかし、連立方程式の計算や箱ひげ図の意味理解の問題など特定の課題があるため、朝自習の時間や週末課題等の補充学習を通して、連立方程式や箱ひげ図等の問題に取り組む。	上回っている
理科	全体的にどの領域においても全国平均正答率を上回った。しかし、化学分野については、やや課題のある単元がある。また、知識を問われる問題は全国平均を上回る正答率の問題が多かったが、わずかに上回る程度であったため、実験等の視覚的なモデルを使用することで理解を深めさせる。グラフの読み取りは、数学科と連携し、関数のグラフの見方や意味理解ができるように指導していく。	上回っている

2. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
○「学校の楽しさ」「自尊感情」に関する肯定的な回答の割合は昨年度よりも高く、改善されている。これらの結果から生徒にとって八児中学校での学校生活が充実したものになってきている生徒の割合が増えていると考えられる。
○「読書」に関する肯定的な回答の割合は昨年度から大きく改善した。八児タイム、総合、教科等様々な時間に活用しているNIEの取組や学校図書館職員による図書館のレイアウトの工夫等が要因と考えられる。
○「将来の夢や目標をもっている」と回答した生徒が多く、キャリア教育等を通して、自ら将来を真剣に考えることができているため、学校行事等の様々な活動に対しても、前向きに取り組む姿が多くみられる。
○「スマホ・携帯電話の所持率」が高く、長時間使用している生徒の割合も多い。このことから家庭学習の時間の少なさや生活習慣の乱れに繋がることが懸念される。
○「就寝時間や起床時間が一定」と回答した生徒が全国平均と比べて少なく、規則正しい生活リズムを確立できている生徒が少ない。

3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

○今回の調査による正答率は、全国平均を上回るものが多いが、学習習慣の定着や教科に対する関心はさらに高めることができる状況である。家庭学習の充実と主体的・対話的で深い学びを実現し、学力の定着に努める。

○本校では、効果的なICT機器の活用や、生徒の思考を深める発問の工夫等をテーマとして授業研究を行っており、生徒の実態に合わせた魅力ある授業づくりを進めていく。

○正答率の低かった領域の内容に対して、基礎的・基本的な問題の意味理解の定着を重要視することで、基礎学力の定着に努める。

② 家庭生活習慣等に関する取組

○学校からの各種通信や保護者懇談会等の様々な機会を通して、生活習慣の確立や家庭学習の習慣化が心身の成長や学力向上の大きな要因となっていることを今後も発信し続けていく。

○SNSの使い方について、学校からは専門家を講師に迎えた講演会やテキストを使って、粘り強く家庭でのルールの確立を促していく。